

2 学年 国 語

授業の受け方

- ① **しっかり聞く・考える**…先生の話や友達の意見をよく聞き、自分の意見を深めましょう。特に物語や説明文では、登場人物の心情や筆者の意図を考えましょう。
- ② **ノートを工夫して書く**…ただ黒板を写すだけではなく、大切なポイントをまとめたり、気づいたこと、考えたことなどを書き込んだりして、後で復習しやすいノートを作りましょう。
- ③ **積極的に発言・質問する**…わからないことをそのままにせず、質問することが大切です。また、自分の意見を発表することで、理解が深まり、考える力も鍛えられます。

家庭学習のポイント

- ① **漢字練習を丁寧に**…新しく習った漢字は、ただ書くだけではなく、意味や使い方も確認しましょう。また、教科書に出てくる言葉の意味を辞書で調べて、自分の言葉でまとめると理解が深まります。
- ② **ノートの見直し・整理をする**…授業で書いたノートを見返し、大切な部分に線を引いたり、書き足して整理しましょう。ポイントをまとめておくと、理解が深まり、テスト勉強に役立ちます。
- ③ **課題や宿題にしっかり取り組む**…課題や宿題は、授業の予習・復習としてとても大切です。一言で済ますのではなく、自分の考えや意見をきちんと書くことで、国語の力が身に付きます。

定期考査に向けた取り組み方

- ① **プリントを見直す**…授業で配られたプリントには、大切なポイントが書かれています。特に、登場人物の心情や説明文の要点、流れなどは大切です。
- ② **漢字を確実に覚える**…漢字は覚えれば確実に点数に結びつきます。毎日コツコツ練習しましょう。教材があれば利用しましょう。何回も書いて覚えることが重要です。
- ③ **ワークをしっかり活用する**…ワークは一通り解きましょう。その際、記号問題も記述問題も、答えの確認だけでなく、どうしてその答えになるのか考えると実力を磨くことができます。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 …学年に応じた漢字・文法の知識、文章の理解、表現の技能を身に付いているか。	定期考査、小テスト、提出物の状況
思考・判断・表現 …文章を深く考える力。自分の意見を表現する力。複数の文章、意見を関連させて考える力。自分の意見を表現する力。それらが身に付いているか。	定期考査、小テスト、提出物の状況
主体的に学習に取り組む態度 …自分の考えをもち、意欲的に学習に取り組もうとしているか。学習の見通しをもち、工夫する姿勢と、振り返りを行い、学びを深めようとしているか。	定期考査、提出物の状況、授業の状況

2 学年 社 会

授業の受け方 ☆学びの交差点を参考にしよう！

- ① 自ら学ぶ姿勢を大切にしましょう。そのために、学習の方法を自ら選択してもらいます。自分に合っている学習方法を見つけ、常に疑問をもち、積極的に学びましょう。
- ② 学習の見通しを立てましょう。授業や単元の最初に学習する内容の説明をすることで、単元の学習の見通しを立てて、取り組ましましょう。途中で修正しても構いません。
- ③ わからないことがあったら、とにかく質問をしよう。先生だけでなくクラスメイトなど誰に聞いても構いません。わからないことをわからないままにすることが一番危険です。

家庭学習のポイント

- ① その日学んだ内容を5分～30分で振り返りましょう。最低でも教科書を1読。できる人はその範囲のワークにも取り組んでみましょう。
- ② ワークの取り組み方として、何回も解き直しができるように、学習ノートを活用しましょう。ワークには直接書き込まないようにしましょう。
- ③ 時間をかけすぎない。継続できなくなってしまう。もちろん、社会だけ時間をかけても学習に偏りが出てしまいます。長くても30分。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 教科書の範囲をしっかりと読み込もう。読んでいてわからない文章があったらすぐ質問しよう。※質問教室や、教科のチャットを活用しよう。
- ② ワークを最低2周はしましょう。1度問題を解いても知識が完全に定着したとは言えません。3周目は間違えた問題のみ取り組むとか、工夫できるとなお良いです。
- ③ 学んだ内容を、人に説明できるようにしよう。言葉にすることでわからないが明確になり、勉強の見通しが立ち、理解も進みます。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 地理・歴史で取り扱った内容を理解し、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。	学期はじめ小テストの状況 単元末テストの状況 定期考査の状況
思考・判断・表現 地理・歴史における課題の解決に向けて思考・判断し、それらを基に議論しているか。	定期考査の状況 探究課題の記載内容 振り返りシートの記載内容
主体的に学習に取り組む態度 より良い社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしているか。	探究課題の記載内容 学習課題の記載内容 振り返りシートの記載内容

2 学年 数 学

授業の受け方

- ① 教科書・ノート・ファイル・問題集が基本の4点セットです。(定規やコンパスも使います。)忘れ物がないように必ず準備をしておきましょう。
- ② 他の生徒の意見を聞き、自分の考えの参考にしましょう。また、いろいろな人の意見を取り入れ、自分なりの考え方を見つけていきましょう。
- ③ 時間のある時には、問題集を進めたり、他の人と学び合い、授業の時間を有効に活用しましょう。

家庭学習のポイント

- ① 授業のあった日は、教科書・ノート・プリントを見て授業の内容を確認しましょう。
- ② 時間に余裕のある日は問題集を進め、間違えた問題を繰り返し復習しましょう。また、注意ポイントを書き残しておくとい良いでしょう。
- ③ 問題集が解き終わったら、もう一度解いてみましょう。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 問題集に何度も取り組みましょう。問題集でわからなかった問題は必ず先生や友達に聞きましょう。ぜひ質問教室を活用してください。
- ② 計算練習をたくさんしましょう。計算力を上げることで、思考・判断・表現の問題に多くの時間を使えるようになります。
- ③ 余裕がある場合は授業で扱ったプリントをもう一度もらうなどして繰り返し取り組みましょう。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。	定期テスト 単元テスト 再テスト
思考・判断・表現 数学的な推論の過程に着目し、論理的に考察し表現しているか、表や式、グラフを相互に関連付けて考察しているか、傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断して、考察しているか。	定期テスト 単元テスト 再テスト 授業の取り組み状況
主体的に学習に取り組む態度 粘り強く考え、生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	レポート 再テスト 単元ごとの振り返り ワークの取り組み状況 授業の取り組み状況

2 学 年 理 科

授業の受け方

- ① 授業を通して、ノートを取り方を工夫しましょう。
学習を進めていく中で、自分が興味をもち大事だと思った内容を積極的にメモしましょう。授業で学んだことを自分で分かりやすく整理することで、学習内容が定着しやすくなります。
- ② 実験では、結果から考察することをベースに、予想もできるようになっていきましょう。
結果の予想を立てることで、より深い学びができます。最初は難しくても挑戦しましょう。

家庭学習のポイント

- ① 家庭学習では、復習に力を入れましょう。
理科で学習する分野は非常に幅広いです。はじめて学習する単元では、予習してもよくわからないことが多いです。それよりは、これまで（小学校も含めて）授業で学んだことを関連づけながら繰り返し学習の方が理解が進みます。
- ② 教科書やノートを活用しましょう。
教科書では、単元ごとの学習内容が記述されています。ノートでは、自分が学習して身に付いた内容がまとめられています。ノートだけで足りない内容、教科書では分かりにくかった表現を見比べることで、自分の学習状況が整理されてきます。

定期考査に向けた取り組み方

- ① ワークなど、練習問題を繰り返し取り組みましょう。
ワークや教科書に載っている問題と、定期考査で出題される問題は似たパターンが多いです。繰り返し学び、パターンに慣れましょう。
- ② わからない問題に、時間をかけすぎないようにしましょう。
時間は有限です。難しくても全然進まない問題は質問するなどして、効率よく学習しましょう。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 自然に関する原理・法則などを理解し、観察・実験などに関する技能を身に付けているか。	定期テストの状況 小テスト、単元テストの状況 パフォーマンステストの状況
思考・判断・表現 自ら問題を見だし見通しをもって観察・実験などを行い、探究して表現できるか。	ノートの記載内容 ワークシートの記載内容 定期テストの状況
主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているか。	ノートの記載内容 ワークシートの記載内容 定期テストの状況

2 学年 音 楽

授業の受け方

- ① 音楽の授業の基本は、「聴く」ことです。音楽に耳を傾け「聴く」、先生の話真剣に「聴く」ことです。そこから音楽の深い世界に入っていきましょう。
- ② プリントの記入は、自分なりによく考えて、丁寧に記入しましょう。
- ③ 歌うときには表現の意図をもち、恥ずかしがらずに自分なりの表現を心がけましょう。
- ④ 持ち物は、教科書、コーラスフェスティバル、ファイル、筆記用具の4点セットです。プリントはファイルに確実に保管しておきましょう。

家庭学習のポイント

- ① ジャンルを問わずいろいろな曲を聴いて心を耕してください。
折に触れ「知覚」と「感受」を関連付けた聴き方をしてみてください。
- ② 楽器を習っている人は、たくさん練習をして上達してください。
- ③ 音楽は“心”で感じるものです。心を耕すために、読書や映画、絵画など質の高い芸術に親しましましょう。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 定期考査は学期ごとに1回ずつ、年間で3回行います。また、実技テスト（歌のテスト）を原則学期に1回行います。
- ② 授業で扱ったプリントを、教科書や楽譜（コーラスフェスティバル）と照らし合わせて復習してください。
- ③ 定期テストと日頃の授業の取り組み（プリントや実技テスト）を5：5で評価します。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 曲想や音楽の構造、背景などとの関りを理解する。 音楽表現を創意工夫したり音楽の良さを味わって聴く能力を身に付けているか。 音楽表現を生み出すための発声や発音などの技能を身に付けているか。	日頃のプリントの記入内容 定期考査の状況 実技テストの状況
思考・判断・表現 音楽を形づくる要素を知覚し特徴や雰囲気を感じ取り、曲の表現を工夫し自分の考えをもっているか。 音楽の特徴や感じたことを自分の言葉で表現しているか。	日頃のプリントの記入内容 定期考査の状況
主体的に学習に取り組む態度 音楽や音楽文化に親しめるよう、音楽活動を楽しんで取り組んでいる。音楽活動に粘り強く取り組み、自己調整しながらより良い音楽を求めているか。	日頃のプリントの記入内容 授業への取り組み状況

1 学年 美 術

授業の受け方

- ① **先生が全体に話す時は前を向いて顔を上げ、静かに話を聞きましょう。**
美術の授業は制作がメインですが、話を聞いていないと何をやるのかわからなくなってしまいます。制作中であれば一度手を止めて、しっかりと話を聞きましょう。
- ② **不必要な立ち歩きはしない。**
教室の前後に貸し出し用の用具を準備しています。それらを取りに行ったり、水を取り替えに行ったりすること以外で席を離れる場合は、必ず先生に声をかけてください。
- ③ **丁寧な制作を心掛ける。一生懸命取り組む。完成させる。**
美術の能力は全て日々の生活と制作の積み重ねで向上します。また、素早く作業を終えれば良いというわけではありません。無駄話はせず、丁寧に、全力で取り組みましょう。

家庭学習のポイント

- ① **視野を広げましょう。**
美術館へ行く、画集を読む、映画を観る、音楽を聴く、読書をする、新聞を読む等、知識身に付け視野を広げることを何かしらしてください。発想の幅が広がります。

定期考査に向けた取り組み方

- ① **定期考査は、観点1(100)、観点2(100)の200点中50点分として扱います。**
制作だけではなく、試験の点数もしっかり取れるよう勉強してください。また、『漢字で書きなさい』という問題が出る場合もあります。テスト範囲の内容は漢字まで覚えるようにしてください。
- ② **描く課題が出る場合もあります。**
知・技を問う問題であれば、テスト前に自分でもう一度やり方を確認し、最低1回は描いてみてください。思・判・表を問う問題は視野を広く持つことが大切です。『家庭学習のポイント』をヒントにし、日々、発想力を高めておきましょう。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	完成作品の状態、 その他、ワークシート・振り返り等、提出物の記載内容 ※classroomでの課題を含む 定期考査の状況、授業中の取組状況
思考・判断・表現 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	完成作品の状態、 その他、ワークシート・振り返り等、提出物の記載内容 ※classroomでの課題を含む 定期考査の状況、授業中の取組状況
主体的に学習に取り組む態度 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	完成作品の状態、 その他、ワークシート・振り返り等、提出物の記載内容 ※classroomでの課題を含む 授業中の取組状況

2 学年 保健体育

授業の受け方

① 声と身体を大きく使い、基礎体力と運動技能を高めましょう

毎時間行うウォーミングアップ（集団走・体操・補強）で基礎体力をつけ、様々な運動種目の技能を高めることで、運動やスポーツを本気で楽しめるようにします。

② 仲間とたくさん話し合い、アドバイスし合いましょう

どの運動種目においても、仲間と協力することがとても大切です。身に付けた知識をもとに互いの運動を観察し、意見を出し合い、深めていきます。

③ 授業をしっかりと振り返って記述しましょう

めあてに対して、自分や仲間の取り組みはどうだったかを振り返って学習カードに書くことで、自分の考えをまとめていきます。具体的に記述することが大切です。

家庭学習のポイント

運動やスポーツを楽しみと思えることが大切です。また運動やスポーツには「する」「みる」「支える」「知る」といった楽しみ方があります。自分にあった楽しみ方を見つけましょう。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 「中学体育実技」をよく読み、各運動種目の歴史や文化、特性を確認しておいてください。
- ② 各運動種目のルールについては、授業中のゲーム内の取り組みと併せて、「中学体育実技」に記載されている公式ルールや正式名称も確認してください。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 運動の楽しさや喜びを味わうための、運動の合理的な行い方を身につけている。 運動に関する基礎的な事項を理解し、課題の解決に役立つ知識を身に付けている。	授業への取り組み 技能テスト 単元テストなど
思考・判断・表現 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、運動の仕方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	授業への取り組み 話し合い・ペア活動 学習カード・レポートなど
主体的に学習に取り組む態度 仲間と協力し、自己の役割を果たし、最善を尽くして積極的に取り組もうとしている。運動の楽しさを体得しようとしている。健康・安全に留意している。	授業への取り組み 学習カード

2 学年 技 術

授業の受け方

① 「安全が第一優先」を心がける。

木工室・金工室にはたくさんの機械や工具が置いてあります。正しい使い方をすれば便利なものですが、使い方を誤ると大きな事故や怪我につながります。とにかく安全を最優先に授業を受けるようにする。

② 授業中の私語はつつしむ。

教室と違い、向かい合わせの机で授業を受けます。となりや向かいの人との距離がとても近い環境です。授業に関係のないおしゃべり等で、周りに迷惑をかけないようにする。ただし、作業時は、仲間とコミュニケーションをとりながらの授業を可とします。

③ 時間を守る

基本、毎回工室が金工室で授業を行います。教室移動となるので、チャイムが鳴った時には必ず自席に座っていることを心がける。

家庭学習のポイント

① 特に家庭学習を行う必要はありません。

ものづくりや電気の知識また情報を扱い方等、学習した内容を家庭生活に生かしていきましょう。長期休業時に出題される課題は、必ず自分の力で行ってください。

定期考査に向けた取り組み方

① 授業で説明した内容が試験範囲となります。試験前にノートや配布されたプリントを中心に復習しておく。作業についての問題も出題されることもあります。③

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 エネルギー変換の分野で、発電の仕組みや問題点などを理解しているか。また、電気の基本知識、また危険性や有効活用等を理解したうえで、作品を製作することができているか。	・ 定期考査の状況 ・ 授業中の取組状況 ・ ノートの記載内容 ・ 作品の完成度
思考・判断・表現 自らの課題を見出し、見通しをもって作業を行い、探究して表現できているか。自分の工夫やアイデアを取り入れた作品を製作し、製作の過程や結果の評価・改善について考えているか。	・ 定期考査の状況 ・ 作品に対する工夫やアイデアの状況 ・ 授業中の取組状況 ・ ノートの記載内容やまとめ方 ・ ワークシートの記載内容
主体的に学習に取り組む態度 主体的に技術に関する知識技能を身に付け、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしているか。	・ 定期考査の状況 ・ 授業中の取組状況 ・ ノートの記載内容 ・ 作品の完成度

2 学 年 家 庭

授業の受け方

- ① 通常の持ち物は教科書と家庭科ノート（ワーク）です。準備して着席しましょう。
- ② 学習内容をしっかりワークや配布プリントに記入し、日常生活で実践することを念頭に入れて学んでいきましょう。
- ③ 授業は常に誠実に取り組み、質問や発表を積極的にしていきましょう。

家庭学習のポイント

- ① 宿題が出たときは忘れずに。また、提出日を守りましょう。
- ② 教室や調理室で学んだことを家庭で実践してみて、知識・技能を確かなものにしていきましょう。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 教科書、ワーク、プリントを復習し理解して、大事なところは覚えておきましょう。
- ② 製作実習がテスト範囲の場合、製作方法、製作過程をよく理解しておきましょう。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 衣食住生活などの機能について理解し、生活の自立に必要な知識・技能が身に付いているか。	定期テストの状況、小テスト
思考・判断・表現 生活の自立に必要な知識・技能を習得し、考察して的確に表現する力が身に付いているか。	ワークの記載内容、配布プリントの記載内容 定期テストの状況、授業中の取り組み状況
主体的に学習に取り組む態度 製作や調理などの活動の楽しさを実感して根気強く取り組み、生活に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとしていたりしているか。	作品と提出状況 実習の反省レポートの記載内容、 ワークの記載内容、配布プリントの記載内容 授業中の取り組み状況

2 学年 英 語

授業の受け方

- ① 指示された授業道具を忘れずに持ってきてきましょう。教科書、ノート(Benjamin)、ワーク(英語のパートナー)、ファイル、タブレットとさまざまな道具を使います。タブレットは充電しておきましょう。
- ② 英語の発音や音読、コミュニケーション活動、発表活動、パフォーマンステスト等に、積極的に取り組みましょう。授業は「聞く」だけでなく、「参加」することが大事です。
- ③ 授業用ノートづくり(予習)、ワークでの復習、プリントの課題など、家庭学習をすることで、授業の理解が進みます。

家庭学習のポイント

- ① 宿題をやりましょう(授業用ノートに予習、ワークで復習、教科書の音読20回など)。
- ② デジタル教科書を使い、教科書の音読をしましょう(1ページ20回目標)。
- ③ 習った単語や文は、とにかく覚え、言えるようになったら、書けるようにしましょう。

定期考査に向けた取り組み方

- ① 教科書の単語、文など聞いたり読んだりしてわかるように練習しましょう。
デジタル教科書、ワークのデジタルコンテンツ、Webテストなどを活用しましょう
- ② ワークを繰り返しやりましょう。
ワーク本体に書きこまず、付属ノートを使用して複数回取り組みましょう。
- ③ 習った単語や文を使い、自主学习ノートに書いて練習しましょう。
今まで習った単語や文法は重要です。繰り返し練習し、使えるようにしましょう。

評価・評定について

観点について	評価の方法について
知識・技能 文法や語彙などを理解し、コミュニケーションで活用できる基礎的な技能を身に付けているか。	定期テストの状況、パフォーマンステストの状況 小テスト、スペリングコンテストの状況 プリントの記載内容など
思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や状況などに応じて、自分の考えなどを的確に表現したり伝え合う力を身に付けているか。	定期テストの状況、パフォーマンステストの状況 ノートの記載内容、プリントの記載内容 英作文記載内容など
主体的に学習に取り組む態度 主体的にコミュニケーションを図ろうとするため、粘り強く取り組み、自分で過程を振り返ったり、振り返って評価・改善しようとしたりしているか。	パフォーマンステストの状況、ふり返しシートの記載内容、授業中の取り組み状況、ノートの記載内容、プリントの記載内容など